

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究事業））
分担研究報告書

患者調査に関する文献レビュー
-厚生労働科学研究成果データベースより-

研究分担者 西大 明美 国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター・研究員
研究分担者 辻 雅善 近畿大学九州短期大学生活福祉情報科・准教授
研究代表者 星 佳芳 国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター・センター長

研究要旨：

患者調査の過程において様々な課題があると考え。そこで、まず患者調査に関する文献レビューを行うことで先行研究内容を明らかにし、課題の抽出および課題に対する現状を把握することを目的とした。患者調査に関する文献を厚生労働科学研究成果データベースを用いて抽出した。採択基準としては、患者調査の効率化について検討した論文・報告書とした。抽出された文献から表題と要旨等を確認した後フルテキスト・報告書全文を確認した。患者調査の効率化について検討した論文・報告書は認められなかったが、患者調査データを利用した研究等が抽出されたので概要を報告する。

A. 研究目的

患者調査は、病院及び診療所を利用する患者について、その傷病状況等を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的としており、3年に1度実施される基幹統計調査である。患者調査では、紙による調査票の提出に加えてオンライン調査システムを利用した電子調査票による提出を選択できることで、報告者負担の軽減が図られている。しかし、医療施設での調査票記入と、調査結果の集計作業の負担は依然として大きい。加えて、調査結果の、早期公表につながる効率化を検討することが求められており、特に主傷病のコーディング（ICD-10に準じる）等の集計における効率化を図ることが必要である。

患者調査の調査票の記入・作成・確認作業・コーディング・傷病名の分類・集計の過程等において効率的に行うための課題があると考え。そこで、患者調査に関する文献レビューを行うことで先行研究の中で患者調査を効率的に行うための提案をした研究があるか確認することを目的とした。また、文献のスクリーニングの途上で、目的とするテーマを扱っていないが、患者調査についての研究を行った論文があれば、その内容を

確認する。

B. 研究方法

患者調査に関する文献を下記のデータベースから抽出した。

厚生労働科学研究成果データベース

<検索語等>

・厚生労働科学研究成果データベース：

報告書の概要版内のテキスト検索「患者調査」

<文献の採択基準>

患者調査の効率化について検討した研究

<スクリーニング方法>

タイトルと抄録のみで一次スクリーニングを独立した2名で行う。採否について意見が割れた文献は、全てフルテキストを取り寄せる。フルテキストを確認し採否を決定する。フルテキストを確認し、不採用になったもので下記のテーマに関する論文は、その内容を確認した。

a. 患者調査のデータを用いて分析を行ったもの

b. 患者調査の手法について検討したもの

（倫理面での配慮）

本研究は該当せず。

C. 研究結果

文献検索の結果、厚生労働科学研究成果データベースより 331 件（抽出範囲：H9（1997）年度～R3（2021）年度、最終情報取得日：2023 年 2 月 13 日）の報告書が抽出された。研究課題名と概要版（研究目的・研究方法・結果と考察・結論）による一次スクリーニングの結果、患者調査の効率化に関する報告をしたものは認められなかったが、「a. 患者調査のデータを用いて分析を行ったもの、b. 患者調査の手法について検討したもの」か不明なものが 81 件（同じ課題の別年度報告の重複を含む）抽出された。その中で、患者調査に関連する研究が 11 課題確認できたので、概略を補表に示す。

D. 考察

一次スクリーニングの結果より、患者調査の効率化を検討した研究は認められなかったが、患者調査のデータを用いた研究は様々なものが認められた。

E. 結論

患者調査に関して文献レビューを行ったところ、患者調査の効率化について検討した論文・報告書は認められなかったが、患者調査データを用いて、傷病数や地域医療体制等に関する様々な分析が行われていた。患者調査の効率化に関して検討した論文・報告書が先行研究に認められなかったことから、本研究課題は、新規性の高い研究となると予想された。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 西大 明美, 木村 映善, 瀬戸 僚馬, 佐藤 洋子, 星 佳芳, 緒方 裕光, 水島 洋 : 疾病および関連保健問題の国際統計分類第 11 回改訂版 (ICD-11) フィールドトライアルにおけるコーディング結果の一致性の評価: 保健医療科学 70, 306-314, 2021.

2. 学会発表

(1) Keika Hoshi, Akihiro Toyota, Masayuki Tatemichi, Yoko Sato, Eizen Kimura, Masayoshi Tsuji, Hiroshi Mizushima, Hiroshi Yamakami, Tomoko Tashiro, Satoshi Ueno, Akemi Nishio. Future application of ICD-11 codes on the diagnostic names of sickness or injury in nationwide patient surveys in Japan

WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING. Oct 2022.

(2) 星佳芳, 豊田章宏, 水島洋, 木村映善, 佐藤洋子, 辻雅善, 小林健一, 上野悟, 西大明美, 高田春樹. 患者調査の効率的な実施手法の確立に資する研究. 第 81 回日本公衆衛生学会総会. 2022 年 10 月

(3) 西大明美, 星佳芳, 上野悟, 佐藤洋子. ICD-11 導入における教育実施の国際比較. 第 81 回日本公衆衛生学会総会; 2022. 10. 7-9; 甲府. 日本公衆衛生雑誌. p. 194.

(4) 星佳芳, 佐藤洋子, 三宮恵子, 三宮慶邦, 崎山博子, 松村薫子, 木村映善, 高田 春樹, 上野悟, 西大明美, 山上 浩志, 田代 朋子, 池川 麻衣, 水島 洋. 歯科診療所における患者調査を想定した実態調査. 第 42 回日本医療情報学会学術大会 (第 23 回日本医療情報学会学術大会); 2022. 11. 17-20; 札幌. 第 42 回医療情報学連合大会論文集.

p. 1251-1254.

(5) 佐藤洋子, 星佳芳, 高田春樹, 木村映善, 池川麻衣, 山上浩志, 田代朋子. 患者調査の効率化に資する ICT ツール実装のための歯科病名ライブラリの開発. 第 42 回日本医療情報学会学術大会 (第 23 回日本医療情報学会学術大

会) ; 2022. 11. 17-20 ; 札幌. 第 42 回医療情報学連合大会論文集. P. 1282-1284.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

補表：厚生労働科学研究成果データベースより抽出された患者調査に関連する研究課題

文献番号	研究課題名	課題番号	研究年度	研究者名 (所属機関)	内容
201102003B	OLAP (多次元データベース)による医療統計の公表手法開発に関する研究	H22-統計・一般-004	平成 23(2011) 年度	岡本悦司(国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部)	初年度は社会医療調査の公表統計表の OLAP 化を, 2 年度目は患者調査の統計法 32 条に基づく申請により出生コホート別の集計を行い, 出生コホート別の統計を初めて行った。

200824006B	がん臨床研究に不可欠な症例登録を推進するための患者動態に関する研究	H18-がん臨床・一般-006	平成20(2008)年度	上 昌広(東京大学医科学研究所先端医療社会コミュニケーションシステム 社会連携研究部門)	年齢階級別罹患率が既知である白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の新規発症患者を対象として患者動態調査を遂行した。年齢階級別罹患率から調査地域の罹患者数を推定し、実際の患者調査と比較した。
201317043B	てんかんの有病率等に関する疫学研究及び診療実態の分析と治療体制の整備に関する研究	H23-精神-一般-004	平成25(2013)年度	大槻 泰介(国立精神・神経医療研究センター 国立精神・神経医療研究センター 病院 脳神経外科診療部)	厚労省の患者調査で把握されないてんかんの患者数と診療実態を調査し、我が国に必要なてんかん医療のニーズを明らかにするとともに、既存の医療資源の活用を含め、より良質のてんかん医療の供給体制の道筋を提言した。

201702002B	レセプトデータを活用した患者調査統計報告の手法に関する研究	H28-統計-一般-002	平成29(2017)年度	伊藤澄信(独立行政法人国立病院機構本部 総合研究センター)	患者調査の入力負担を軽減するために、レセプトデータ等が利用できるかどうかについて平成26年患者調査結果に同時期の国立病院機構病院のレセプトデータ等と突合し、レセプトデータの利活用可能性を検討した。
201802003B	患者調査における総患者数推計の妥当性の検証と応用に関する研究	H29-統計-一般-003	平成30(2018)年度	橋本修二(藤田医科大学 医学部 衛生学講座)	「患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推計に関する研究班」の研究成果として、総患者数の新しい推計方法への変更が提言された。本研究の目的としては、総患者数の新しい推計方法について、妥当性を検証し、その応用を検討した。
201602001B	患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推計に関する研究	H27-統計-一般-001	平成28(2016)年度	橋本修二(藤田保健衛生大学 医学部 衛生学講座)	患者調査に基づいて傷病別の外来患者の診療間隔や入院患者の入院期間などの詳細な受療状況の年次変化を解析し、レセプトデータを用いて複数の医療施設・傷病の受療状況を解析するとともに、総患者数の推計方法と副傷病の取り扱い方法を検討した。

200500068B	患者調査 の統計情 報高度利 用に関する研究	H16-統 計-001	平成 17(2005) 年度	長谷川 敏彦(国 立保健 医療科 学院政 策科学 部)	平成 20 年度に実施予定の患者調査に 向けて、時代に適応した調査のあり 方と調査後の統計情報の使用方法を 検討した。
201901001B	社会構造 の変化を 反映し医 療・介護 分野の施 策立案に 効果的に 活用し得 る国際統 計分類の 開発に関 する研究	H29-政 策-一 般-001	令和 1(2019) 年度	今村 知明(公 立大学 法人奈 良県立 医科大 学 医 学部 公衆衛 生学講 座)	疾病及び関連保健問題の国際統計分類 (ICD) は、わが国では死亡統計のみ ならず患者調査、DPC などの医療保 険制度、診療情報管理などに広く活用 されている。 ICD 改訂による影響がわが国の医療 全般に関わることを念頭におき、わが 国において適切な分類をとりまとめて 提言した。

200702001B	電子医療情報の有効利用による傷病および医療機能に関する統計情報の収集・分析・利活用の効率化と充実のための方策に関する研究	H18-統計-一般-001	平成19(2007)年度	伏見清秀(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療情報システム学)	患者調査の情報担当者、情報源は多様であり、電子化・標準化が進んでいるレセプト情報だけではなく、診療録情報から標準的に調査関連データを抽出する方策の検討の必要性が示された。この観点から DPC 調査データの方式が参考になると考えられた。医療機関での患者調査データ入力については、医事課、診療情報管理部門、看護部門等多くのマンパワーが必要とされていることが示された。急性期の DPC 病院と一般中小病院の比較では、特に中小病院で医事課の業務負担が大きくなっていることが示された。
202001012A	社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究	20AA1002	令和2(2020)年度	小川俊夫(学校法人摂南大学 農学部食品栄養学科)	ICD-11 国内導入のわが国の公的統計に与える影響を考察し、ICD-11 の円滑な国内導入に資する知見を集積する。ICD-11 の国内導入に伴い、人口動態統計や患者調査など各種公的統計への影響について検証を行った。

202002005A	NDB データから患者調査各項目及び OECD 医療の質指標を導くためのアルゴリズム開発にかかる研究	19AB1004	令和2(2020)年度	加藤源太(京都大学医学部附属病院診療報酬センター)	NDB データを用いた患者調査各項目の再現を行い、得られた結果への評価を行った。また、患者調査における平均診療間隔についての評価、NDB データから OECD-HCQO 指標を導くためのアルゴリズムの開発、末期高齢者の診療実態に関する NDB を用いた記述・横断研究を通じて確認された検討課題の確認を行った。
------------	--	----------	-------------	---------------------------	--